

1979年に作家としてデビューし、1989年江戸から明治への転換期に、時代に翻弄されながらも絵で生きる浮世絵師を描いた『東京新大橋雨申図』で直木賞受賞。歴史時代小説家：杉本が、生涯をとおしてこだわった江戸時代のリアリティーあふれる世界観が評価された作品となりました。

本展では、杉本文学の特徴である江戸時代の風俗を細かく表現した著作本をはじめ、直木賞受賞時の記念品である銀時計や、写真等を公開します。

また、晩年は乳がんを患いながらも積極的な治療は受けず、最後の最期まで小説家として生き抜くことを決意し、癌を受け入れて執筆活動を続けた経過をパネルをとおして紹介します。

特に、杉本亡き後、本人の遺言により「故郷八女市」へ寄贈された生原稿を初公開します。この原稿は、最終章が書かれることなく、刊行された『カナリア恋唄』の続編原稿でした。序盤は丁寧に鉛筆書きされていますが枚数が進むにつれて筆跡が乱れ、最後は走り書きのように文字が流れています。杉本章子が世を去ってから5年。展示をとおして、小説家として全うした歩みと生きた証を感じていただけると幸いです。

# 特別展示 逝く日のためにわれらは生きる 追悼 杉本章子



絶筆原稿（八女市所蔵）

直木賞副賞銀時計  
（八女市所蔵）

## 杉本章子 プロフィール

昭和 28 (1953)年、福岡県八女郡福島町（現八女市）に生まれ。八女市立三河小学校、八女市立南中学校、福岡海星女子学院高校を経て、ノートルダム清心女子大学卒。金城学院大学大学院修士課程修了。昭和 54 (1979)年、「男の軌跡」で第4回歴史文学賞佳作を受賞。昭和 58 (1983)年第14回福岡市文学賞を受賞。平成元 (1989)年「東京新大橋雨申図」で第100回直木賞を受賞。同6 (1994)年、福岡県文化賞受賞。同14 (2002)年、初のシリーズものとなる「おすず一信太郎人情始末帖」で中山義秀文学賞を受賞。「カナリア恋唄」(平成 28 (2016)年2月 講談社)が遺作となった。平成 27 (2015)年、12月4日逝去。享年62。

2021.

4.29 [木] - 6.30 [水]

会場 / 八女市田崎廣助美術館 特設コーナー

- 開館時間 / 9時-17時(入館は16時30分まで)
- 入館料 / 無料
- 休館日 / 月曜 (ただし、5月3日は開館)  
企画展後の展示替えに伴う休館 5.31[月]-6.11[金]
- 主催 / 八女市、八女市教育委員会
- 主管 / 八女市田崎廣助美術館、八女市立図書館

[交通案内]

- 車 九州自動車道八女ICより約15分、広川ICより約20分  
駐車場無料(八女市役所 立花支所の駐車場をご利用ください)
- 電車・バス JR羽犬塚駅下車、堀川バス・八女方面「福島」で下車(約35分)、  
堀川バス・辺春平山線に乗換「丸野」で下車(約5分)

\*JR久留米駅下車の場合は西鉄バスをご利用ください。

八女市田崎廣助美術館

福岡県八女市立花町原島 108-1 TEL...0943-24-8304

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会期の変更、中止をすることがあります。

